徳島大学　全学共通教育センター

週刊　学びのコミュニティー

第 2 号

平成 21 年 2 月 25 日発行

昨年秋に学生・社会人・教員合同会、「高等教育研究会」が発足しました。現在更なる会の充実を目指し、内容の見直し中です。3 月よりリニューアルして始動開始予定です。詳細が決まりましたら、またお知らせ致します。

今回は、今までの活動内容を少しご紹介させて頂きます。

【高等教育研究会】

2008 年度の 10 月より、開放実践センターのインテリジェント・ラボにおいて、毎週火曜日 3・4 限目に、学生・社会人・教員による高等教育研究会が開かれている。自主参加形式で、その時間になれば都合がつく人が自然と集まるという形式でやっている。2 回目から参加している光永さんが自宅で生産した生のハーブティを出してくれる。しかも彼女のオリジナルのブレンドでとてもおいしい。

今のところ、週ごとに発題者を決めて、テーマに沿った発表・報告がなされた後、参加者全員による意見交換がなされている。今回は高等教育研究会第 6 回目の、社会人学生富永君の発表とその後の意見交換での話題を紹介したい。

富永君は、徳島大学の平成 20 年度の後期試験に出題された総合科学部の小論文の試験問題が面白かったと紹介してくれた。この小論文は実際にあった「村八分問題」を扱ったもので、現実にはこれが正しいという解はないが、大学はアドミッションポリシー「この問題を考え解ける人材がほしい」というメッセージが発せられており、彼はそういうことを学べるならと入学を決意したと言う。入学後はいくつかのとても興味深かった教養の授業、研究会、講演会、合宿、徳島大学で開催された学会などに参加し、「こんなに楽しんでいる学生は他にいない」というのが彼の感想である。その後、参加者の間では、こういう問題をたとえば教養の授業や基礎ゼミで扱ってディスカッションしたらどうだろうかという話になった。

桑折先生からは、「このような問題を考えアウトプットするには、新書を 10 冊ぐらい読ませなければならない。10 冊読めば何か書いてある。1 回目は赤で直してあげ 2 回目に丸をつけてあげる。それをやってからディスカッションをすべき。要するに読書の指導をすべき」と語っていた。

毎回、このような感じで、忌憚なく、しゃべっている。新しい授業の試みや学生支援のあり方などという事柄は、各自の毎日の積み重ねの中で醸

成されてくるものだが、人と話しているうちに出てくるアイディアというものもあるし、何よりも実践する励みになる。

この会は3月からはリニューアルして継続していく予定である。少しでも興味のある方はぜひご参加のほど･･･（中惠真理子）

続々入荷中!!

この取り組みで、たくさんの図書を購入しています。その数3500冊ほど！ジャンルは本当に様々で、哲学、心理学、文学、語学、社会学、教育学･･･宗教や戦争、病や食、趣味の分野も充実しています。また、話題になった姜尚中の『悩む力』や坂東眞理子の『女性の品格』、血液型別の『自分の説明書』･･･など、流行本も多数入荷しました。

来年度からは、学習支援室に並べて、現在あるものと同様に、自由に読んで頂けるようにする予定です。現在はGP教員室（3号館3階中央）に保管してあり、お貸しすることも可能ですので、ぜひ覗きに来て、お気に入りの1冊を見つけてはいかがでしょうか？

～編集後記～

私も途中から高等教育研究会参加させて頂いています。自分の考えをなかなか発言出来ずにいた学生さんに“日本人は上手なことを言おうと構えすぎている。上手でなくていいし、スラスラ言えなくてもいいから、自分の思うことを言ってみよう”と参加者の一人、スティーブ先生が励ましていました。誰にでもある主張したい思い、考え。それを臆することなく発信してみる。そこから何かが変わっていきます。先日開かれたフォーラムに参加した学生さんが‘発言するって気持ちいい！恥ずかしいけど･･･’と言う感想を残してくれました。そんな風に思い切って口に出してみることが何よりも大切ではないかと思います。<学びのコミュニティー>では、学生、社会人、教員、誰もが気軽に発言出来る環境、関係作りを目指しています。どうぞ、みなさまもお気軽に発言しにいらしてください。（境）

☆併せてホームページもご覧ください☆

URL:http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life/GP/index.html